

都道府県展望：特集 知事が語る「我が都道府県の平成24年度施策方針と重点施策」

未来づくり発進！～鳥取県からのチャレンジ

東日本大震災、豪雪、竜巻等々、次々に襲い掛かる災害。円高や電力不安による企業流出など、先行き不透明な経済。今、我が国は新たな挑戦を果たし危機を脱することが求められています。

鳥取県としても、この国の再生に向けて、地方分権の旗印の下「未来づくり」に挑戦すべく、壮大なチャレンジに乗り出しました。

夢・未来チャレンジ

第一のチャレンジは、未来に対する夢と戦略を県民と共に描き、地域に希望と活力をもたらす挑戦です。

クールジャパンの象徴である漫画・アニメを突破口として、「まんが王国とっとり」の建国を進める戦略です。11月鳥取県に世界中の漫画家が集結して第13回国際マンガサミットが開催されるのを機に、8月4日から11月25日にかけて県内全域で国際まんが博を開催することとし、地域一丸となってイベントを展開していきます。タレントのトリンドル玲奈さんが王国の王女に即位する式典を行い、全国的な注目を集め始めました。

また、アジアの時代に即応した北東アジアへのゲートウェイ機能を、日本列島の地勢からすれば山陰が担わなければなりません。新たな国際航空路誘致、日本海側拠点港である境港の機能強化のみならず、高速道路ネットワークの構築を進めていきます。

夢・未来へのチャレンジを担う「人財」育成のために、少人数学級を本年度から義務教育全学年で実施することに踏み切りました。さらに、全国に先駆けて、授業改革による学力向上や不登校防止対策などの項目について、県教育委員会と「教育に関する協約」を締結し、教育行政に民意を注入することを担保する鳥取方式のデモクラシーモデルを導入し、教育改革を加速度的に進めることになりました。

産業・雇用元気チャレンジ

第二のチャレンジは、混迷する雇用・経済情勢を打破すべく、多方面における産業育成と雇用の拡大を図る挑戦です。

現下の厳しい経済・雇用情勢に立ち向かうため、未来をリードする産業の創造を目指して、環境、エネルギー、バイオなどの次世代型産業を育成すべく、県内に一定の集積があるLED製品のブランド力向上や販路開拓等に向けた支援、バイオ関連産業を県内に集積させるための融資制度等の創設、医療機器産業分野への県内企業の参入に向けた大学・企業等との医工連携に取り組みます。

また、若者が定着できる社会の実現を目指し、「雇用創造1万人プロジェクト」として農林水産業・福祉・教育分野なども含めて幅広く雇用を産み出すため、民間と行政が一体となった組織が動き始めました。中小企業の新たな経営革新や雇用創出を後押しする助成制度を創設したほか、特産の梨など果樹農家の担い手づくり、乳牛増頭対策等の新規施策を講じ、建設事業者等による介護ビジネス・林業への参入なども支援することとしました。正規雇用を着実に下支えするため、職場体験型雇用や立地企業向け雇用奨励事業も拡充しました。

絆・あんしんチャレンジ

第三は、災害に備えた安心・安全の体制づくりを進めるとともに、県民相互の絆を深めた「支え愛」の地域づくりへの挑戦です。

東日本大震災を教訓に、市町村・企業・医療・福祉施設と連携して、鳥取県全体で災害時においても地域の必須機能を継続していくためのBCPを検討することとしましたが、各分野で補い合おうというのは全国的にも例のない取組です。新たな津波浸水想定を昨年度行いましたが、これに基づくハザードマップや案内表示の作成、津波避難施設等の整備なども、市町村と協調して進めます。さらに、原子力発電所で事故が発生した場合に適切に対処できるよう、モニタリング機器や汚染防護資機材などの整備を、周辺地域としてUPZなどの新たな枠組みを想定してスピーディに行うこととしました。

県民や地域の風土に基づく「支え愛」の精神を活かしたまちづくりを展開するため、「とっと

り「支え愛基金」を新設して、公民館等を利用した高齢者の居場所づくりや中山間地域等での買い物支援など、地域での支え合い活動により生活環境を整える取組を推進することとしました。

また、環境を機軸とした新たな社会システムを鳥取県から構築していくため、NPO、地域、企業と協働して全国をリードする「とっとり環境イニシアティブ」を進めることとし、米子市へ30MW規模のメガソーラー発電所を誘致することに成功したほか、企業、福祉・農業施設などの太陽光発電設備整備支援や、県営ダム等での小水力発電にも乗り出すこととしました。

未来は待っていてもやってきません。地域から皆で創り出していく・・・鳥取県からの挑戦です。